

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	近例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	赤血球製剤の輸血によるCJDでのvCJD感染症例が報告されている。げっ歯類のTSEに関する実験で、赤血球製剤の感染性は赤血球自体に由来するのではなく、残存している白血球や血漿のような製剤中の他の成分に由来することが示された。vCJD因子がヒト赤血球と結合できないことが示されたら、vCJDが発生している国の血液サージは輸血前に洗浄や濾過により感染性のある液相を取り除くことが賢明かもしれない。
												HIV	FDA/OBER 2007年5月23日	男性間性交渉者(MSM)からの供血に関するFDAの方針として、合衆国でAIDSの流行が始まった1977年以降は供血者として延期されている。MSMはHIV、HBVおよび他の感染のリスクが高いからである。米国赤十字によるとMSMのHIV有病率は一般集団の60倍、初回供血者の800倍、リピーター供血者の8000倍高い。HIV検査は非常に正確であるが、HIVには感染後もHIVを検出できないwindow期がある。FDAは受血者を守るため、科学的なエビデンスが得られるまで、この方針を継続する。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/OBER 2007年5月30日	近年、英国で得られた血漿から作られた血漿第XI因子(pdFXI)を投与された患者でのvCJDリスクが関心を集めている。1989年から2000年の間に米国では約50人に英国血漿由来のpdFXIが投与された。世界中でこれまで血友病や他の凝血症患者の患者においてvCJDは全く報告されていない。これらの患者は長期間にわたり血漿由来製剤を大量に投与されていることから、pdFXIを投与された患者でのvCJDリスクは小さいと考えられる。
752	2007/11/26	70752	日本製薬	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体	人血液	米国	有効成分	有	無	無	伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	70751に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfus Clin Biol 2006; 13: 320-328	70751に同じ
												鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	70751に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Curr Opin Hematol 2007; 14: 210-214	70751に同じ